

日本海洋政策学会 課題研究成果報告<要約>

2024年3月31日

課題研究 No. 2021-1

研究テーマ	「海のアジア」教育プログラムの開発
研究目的	近年、中国の海洋進出が活発である。この問題を考えるにあたり、これまでは国際法が主たるアプローチであった。ところが、国際法の射程を踏まえれば、海上法執行等の実務の観点からは実効性に一定の限界もあるように思われる。大国がアジアの海に進出するのは、中国が初めてではない。「海域アジア史」論で議論されてきたように、19世紀のイギリス、そして20世紀にはアメリカによる進出があった。この地域の海域が地域秩序にもつ意義は、歴史を通じて小さくない。これら、過去の事例と比較した時、今回の中国の進出はどこが違って、どこが共通するのか。さらに海洋における最近の技術進歩などを踏まえた時、今後のために得られる現代的な示唆はなにか。これらの理解を深めることが重要となる。また、現状ではこうした点に配慮した教育プログラムは決定的に欠けていると考えられる。そこで上記諸点のレビューおよび検討と併せて、今後の海洋人材を育成するための「海のアジア」教育プログラムの開発を本提案の目的とする。
研究期間	2021年10月～2023年9月
ファシリテータ	山口 健介（東京大学公共政策大学院）
共同研究者名 （所属名）	折山光俊（経済産業省技術協力課） 諏訪達郎（内閣府総合海洋政策推進事務局）

<p>WG, 委員会等 会議開催年月日</p>	<p>第1回 2021 年 10 月 24 日 第2回 2021 年 11 月 13 日 第3回 2021 年 11 月 21 日 第4回 2021 年 12 月 5 日 第5回 2021 年 12 月 19 日 第6回 2022 年 1 月 16 日 第7回 2022 年 10 月 16 日 第8回 2022 年 10 月 29 日 第9回 2022 年 11 月 13 日 第10回 2022 年 11 月 26 日 第11回 2022 年 12 月 18 日 第12回 2023 年 1 月 14 日</p>
<p>研究成果概要</p>	<p>① 東京大学全学自由研究ゼミナール「海のアジア」 2021年度より2023年度まで、東京大学教養学部において上記ゼミを開催した。例年、学部生を中心に30名を超える履修生を集めた。なお、こうした授業も活用して”World Ocean Review”を共訳し教科書をオンライン出版した。</p> <p>② 「海のアジア」セミナーシリーズの開催 産官学の関係する識者を招待して、「海のアジア」セミナーシリーズを学内で開催した。</p> <p>③ 論文出版を目的としたインフォーマルゼミ「海のアジア」の開催 「海のアジア」ゼミの教育成果（上記①）、および識者によるインプット（上記②）を土台としてそれを発展的に昇華させるために、論文出版を目的としたインフォーマルな研究会を定期開催した。</p> <p>【課題】 今後はこれまで試行してきた教育プログラム「海のアジア」をより体系立てて整理したい。その第1の方向性は、台湾有事や南シナ海、東シナ海における中国の海洋進出など、地域秩序が変容しつつある中で、日本と東南アジアの今後のあるべき関係性について理解を深めることである。</p> <p>その際に第2の方向性として、植民地期からの近代の歴史の延長上にその関係性のあり方を見出すことである。昨今の東南アジアの経済的発展のみを捉えて「対等な関係」を主張するのではなく、各国ごとの複雑な社会構造や国際関係を近代史の中で理解することが重要と思われる。</p> <p>第3に、こうした理解のために、各国の地域研究を深めるべく、より広範な知的ネットワークに国内外で触れることが肝要である。今回の課題研究では国内を中心とした展開であったが、東</p>

	南アジア各国で現地での知見を吸収することも今後重要と考えられる。
セミナー、年次大会等 成果発表実績（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年12月1日 日本海洋政策学会第14回年次大会にて発表 ・ 2023年3月20日 Ocean Newsletter に記事掲載 ・ 2023年10月10日 東京大学海洋アライアンス連携研究機構主催「東京大学の海研究」シンポジウムにて発表 ・ 2023年10月13日 Global Offshore Wind Summit 2023にて発表 ・ 2023年11月30日 第45回風力エネルギーシンポジウムにて発表 ・ 2023年12月14日 Massey 大学主催” Vietnam Symposium in Climate Transition”にて発表（ダナン市、ベトナム） ・ 2024年3月19日 Sunway 大学主催” Beyond Bullets: Reimagining Harmony & Security with the University of Tokyo”にて発表（クアラルンプール市、マレーシア）
研究補助費用 （学会記入）	
購入書籍等 （保管者名）	該当なし
備 考	